

会議名

令和2年度第2回長崎広域連携中枢都市圏ビジョン会議

日時

令和2年11月12日(木)10時15分～12時

場所

長崎市立図書館新興善メモリアルホール

議題

- 1 委員の紹介
- 2 協議
 - (1) ビジョン素案について
 - (2) その他

議題1 ビジョン素案について

主な意見等 (○：委員 ●：事務局)

- 「目指す将来像」について、コロナの影響がある中で、質的な、圏域の豊かさを向上させるというところをしっかりと強調してほしい。
 - 目指す将来像について、首長会議においても、暮らしの豊かさや、住み続けたいと思うような力をあげる都市圏としていきたいという発言があるので、ご指摘も踏まえて見直したい。
- (1)「圏域全体の経済成長のけん引」について
- 成果指標について、アウトカム（成果）を示すものと、実績値を示すものとはばらついているところがあるため、検討したほうがよい。
 - 実績値とアウトカムが混在しているため、改めて事務局で整理したい。
- 成果指標に「観光消費額」と「経済波及効果」があるが、経済波及効果は消費額を基に算定する値のため、別物とするものではない。
 - 現在、観光・MICE 戦略を策定中であり、成果指標についても協議の途中である。この成果指標についても、ご指摘の点も踏まえ見直したい。
- 「圏域全体の経済成長のけん引」は、基本的には長崎市が中心となって進めていくというところだが、連携町の役割の記載について、協力、情報提供、協議など大まかな書き方となっている。
具体的に1市2町で連携してやっていけることを連携町の役割に記載するよう検討してほしい。
 - MICE の開催は長崎市のみでなく圏域においても大きなチャンスであるため、

ご意見があった分や連携していることがわかるような記載の仕方を、1市2町の担当課も含めて共有したい。

(2)「高次の都市機能の集積・強化」について

○さるくガイドなど観光分野の人材育成をどのように考えているのか。また、今までどおり外国から船を呼べるのか、それとも国内の旅行者を呼ぶのか。

●現在 DMO で、地域の稼ぐ力を作り出す、観光地の経営の視点に立った観光地づくりを色々な関係者と協力しながら、観光地域づくりを実現するための取組みを進めている。長崎市における誘客としては、コロナの状況を踏まえ、新しい生活様式、旅のスタイルに応じて、市内、県内、九州、全国、海外と段階的に誘客のエリアを広げていくということで進めている。

○「学生等の地元定着支援」について、1市2町で連携しながら、親御さんへの周知も必要だと考える。大学にも長崎の企業のアピールをもっとしてもらいたい。高校に対して行っている地元就職の取組みは大変よい。

●保護者への発信について、長崎市でも取り組んでおり、保護者向けのセミナーの開催などを行い、アプローチしている。実際に取り組んでいる内容を記載し、強化していきたい旨記載するようにしたい。

○高度な中心拠点について、Society5.0 は箱物だけでは間に合わない。43 ページ産学官連携の部分を「(2) 高度な中心拠点等の整備」にも反映をしたほうがよい。

●光ファイバー網について、長与町、時津町は整備済みで長崎市は令和3年度までに整備できるので、このインフラを使って連携中枢都市圏の中で何ができるのか検討し、住みやすさに繋げていきたい。産学官連携協定の部分のご意見を踏まえて、修正したい。

(3)「圏域全体の生活関連機能サービスの向上」について

○子育てについては、既存の2事業のみでいいのか。相互に利用できるというのは素晴らしいと思うが、具体的にどういう連携を図って、解決が図られ、今後どのように進んでいくのか。目指す将来像に子育て支援を充実させるとあるが、どうやって課題などを情報収集し、どのように充実させようとしているのか。また、里帰り出産の方への支援について、長崎市内の事業者をつかったら対象で、2町の事業者は対象外となっている。

●子育て分野については2件となっているが、1市2町で協議が整っているものを記載することを基本としている。病児・病後児保育の相互利用について、検討事項として報告していたが、施設の面、看護師、保育士などの人的な面があり、なかなか難しいというのが現状。病児・病後児については、今後も協議を続けていく。1市2町それぞれで利用者などの声を聴くことは一番大事なところと考えている。里帰り出産の支援については、長崎市が補正予算で、コロナ

の影響により国の助成を受け今年度いっぱい事業として実施している。今後、今の状況が続いた場合など様々な状況を勘案し、2町と連携していけるかなど検討していきたい。

長与町においては、相談事業に力を入れており、子育て支援センターに顔を見て相談できるようオンラインでの態勢をつくっていている。今後、見えてくるところもあると思うので、長崎市、時津町と一緒に連携できるところは行っていきたい。

時津町においては、子育て支援センターとして児童館が4か所、学童が4か所ある。また、子育てに係るハンドブックを成長期に合わせて周知している。子育て支援センターの利用は増えており、町内のみでなく長崎市、長与町からも受け入れている。子育て支援センターにおいては、長与町で研修をする場合に資格をもった職員を派遣したり、相互に研修をするなど連携し、情報共有を行っている。

○大学生の人材育成というのが計画としてあがっているが、定年を迎えた人たちの力もすごく大事なので、シニア世代向けの支援も計画に入れてよいのではないか。

○コロナの中で共助の力が必要となっている中、NPOや市民活動の支援が必要になってくると思うので検討してほしい。

○「図書館・図書室における蔵書の貸し出し」について、5年後までこのままでは少し古すぎであり、電子書籍の対応を検討してほしい。

○高齢者ケア、障害者ケアについて、今回の豪雨や台風の時、避難所で車椅子の方がおり自治会の方に協力をお願いしたが、自治会加入者ではないということで協力できないと言われた。市として、どのようなお願いをしているのか。また、中学生、高校生が両親や祖父母の介護をしているヤングケアラーの対策を、どのように考えているのか。

●自助、公助、共助という中で、これから共助の力を高めるような取り組みをやっていかなければならない。避難所での対応の部分については、担当部局と連携を図っていきたい。介護の件については、次回回答としたい。

時津町においては、災害要支援者の関係について、自治会長・自主防災組織が中心となって要支援をしている。避難する時は原則二人で支援対象者を連れて避難をするということになっている。自主防災組織としては、自治会への加入に関わらずそういった対応をしてくださいということで呼びかけている。

○コロナで気づかされた部分にいかに対応していくか、ビジョンや取組みに活かしていくのか、というところが少し薄いのではないか。